

学修支援センター企画 「ふしぎ探検隊」⑦ レポート

日時：10月16日（金）18時～20時

場所：2号館1階 学修支援センター 学習室1

内容：江戸時代のなぞなぞ解きませんか？

参加者：人間発達学科4年生 3名、グローバル・スタディーズ学科3年生 1名、
卒業生 1名、教職3名 計8名



今回のふしぎ探検隊は「江戸時代のなぞなぞを解きませんか？」ということで、当時流行した目で見るなぞなぞである「判じ絵」について探検しました。

判じ絵の「読み方」

判じ絵は、絵を読んで答えを当てるものです。例えば、ガマがお茶を立てている絵は「茶釜」を表す…というように絵を読んでいきます。

そして判じ絵には「読み方」というものがあります。つまりはなぞを解くためのルールです。例えば、漢字の音読みと訓読みの違いを活用した“しゃれ”を利かせたルールがあります。先ほどの「茶釜」もこのルールに当てはまります。また、“この絵が出てきたらこう読む”と決まった読み方をする絵もあります。例えば天狗の絵があったら、「天狗＝魔物」ということで『ま』と読みます。

他にも判じ絵には様々なルールがあり、判じ絵を解くためにはまずこれらのルールに慣れることが大切です。

『江戸方角かんがへ物』を解こう！

次に、「江戸方角かんがへ物」という江戸時代後期の名所や土地を判じ絵で表したものの解読をしました。江戸の地名を知らなければなかなか大変な作業になると思い、当時の江戸の地図も用意して読み解いていきました。解読を進めていくと、現在はもう残っていない地名があり、江戸時代にタイムスリップしたような感覚になりました。

さいごに

「江戸方角かんがへ物」をすべて読み解くことは残念ながらできませんでしたが、判じ絵を通して、江戸時代の庶民はどんなことをして楽しんでいたのか、当時の江戸はどんな場所だったのかを知ることができました。

